

# 令和6年度 学校評価報告書

## 1 実施時期

- (1) 教職員自己評価 令和6年12月9日(月)～12月13日(金)
- (2) 児童アンケート 令和6年12月10日(火)～12月19日(木)
- (3) 保護者アンケート 令和6年12月10日(火)～12月15日(日)
- (4) 学校関係者評価 令和7年 2月 3日(月)

## 2 アンケート結果 (別紙)

## 3 成果

- (1) 学校は、時代の変化に対応した教育課程の工夫改善、教育活動の創意工夫に努めている。また教職員がチームワーク行動を発揮しながら、円滑な学校運営に向かっている。
- (2) 学校課題研究を通して、算数科における授業力の向上を目指して取り組んできた。授業力向上を目指し、ペアやグループでの協働的な学習を推進している。
- (3) 授業はわかりやすいと回答している児童は97%。「わかった、できた」を実感できている児童が増えている。
- (4) 体育の授業力向上を目指し、研修を行った。
- (5) 食物アレルギーによる事故防止のために、対象児童の全保護者と管理職を含めた面談の機会を設定している。
- (6) いじめ認知件数が増えている。組織的取組の成果といえる。学校生活アンケートを持ち帰って実施することで、家庭との情報共有ができる。

## 4 今後の課題

- (1) 大規模校で教職員の意識にも差がみられる。組織としての共通理解をさらに深める必要がある。
- (2) 「家庭であまり読書をしていない」という意見が多い。読み聞かせ、読書パスポートの活用を推進する。
- (3) ICT端末の1年生の活用をさらに推進し、6年間を通してICT活用スキルを向上させる必要がある。
- (4) 学校は、教職員が丁寧な言葉遣いやもくもく清掃を率先垂範し、人権意識の醸成と落ち着きのある生活ができるように、粘り強く取り組んでいく必要がある。
- (5) 体力テスト結果では、県平均を下回る種目が多い。休み時間の遊びなど、日常的に体を動かす機会を増やす必要がある。
- (6) あいさつについてのアンケートでは、評価は高くなっている。校内でのあいさつは定着できているが、校外において、地域の方やボランティアの方にも「自分から挨拶」できるよう、引き続き指導していく必要がある。
- (7) 学校は、ホームページ及びさくら連絡網を適切に使い分け、保護者・地域への発信を充実させる必要がある。